

■笠森お仙 明和の江戸三美女の一人。アイドルとしてブームになるも、直後に(結婚で)姿消し、伝説化。

かさもりおせん

徳川吉宗没・1751= 生。江戸谷中感応寺境内の笠森稲荷門前にあった水茶屋の鍵屋後兵衛の娘。

源内物産会・1757= 6歳：この年、御家人倉地文左衛門の子政之助(甚左衛門)が庭番となり、小十人に任じられる。

大岡忠光没・1760= 9歳：

・・・・・・1763=12歳：この頃、家業の水茶屋の茶汲み女として働き始めると、評判が立ち始め、

蘭銭初輸入・1765=14歳：この年、倉地文左衛門が死去し、甚左衛門が役務を相続し、休息庭番支配となる。

御家人倉地甚左衛門のプロデュースで、
久留米藩工事1768=17歳：*娘大スターとして、鈴木春信の美人浮世絵で宣伝され、「娘評判記」に取上げられる。茶汲み女としてその美貌が江都に聞え、明和の江戸3美女の1人として人気を博し、茶屋への客が激増しただけでなく、手ぬぐいや絵草紙、すごろくなどの“お仙グッズ”も売れて、茶屋は大儲け。

・・・・・・1769=**18歳**：「新板風流娘百人一首見立三十六歌仙」の冒頭に“大極上上吉・中納言家持・笠森かぎやおせん。笠もりにわたせる見せにおく茶やの、おせんを見れば目ぞさめにけり”とあり、大田南畝の「半日閑話」に“谷中笠森稲荷地内、水茶屋女お仙美なりとて、皆人見に行く。家名鍵屋後兵衛という。錦絵の一枚絵、あるいは絵草子、双六、よみ売等にでる。手拭に染める。(中略)人形にも作りて奉納す。明和五年五月塚町にて中島三甫蔵がせりふに云、采女が原に若紫、笠森稲荷に水茶やお仙と云々、是よりしてますます評判あり”。

・・・・・・1770=19歳：*突然茶屋から姿を消し、板本・講談・歌舞伎などでさまざまな伝説が付会された。実際は、秘密裏に、百姓娘のため西の丸門番馬場五兵衛を仮親として、倉地文甚左衛門と縁組し、その妻となった。

田沼意次老中1772=21歳：

船蝦夷来 1778=**27歳**：

お仙は桜田御用屋敷内に住み、7人の男児に恵まれ、

田沼意次失脚1786=35歳：

寛政改革始・1787=**36歳**：

松平定信引退1793=42歳：

オランダ正月・1794=43歳：夫倉地文甚左衛門が金奉行に栄進した。

プロト来航・1796=**45歳**：

青洲麻醉手術1805=**54歳**：

浮世風呂・・・1809=58歳：夫と死別、

黒住教・・・1814=**63歳**：

水野忠成老中1818=67歳：

シボク来日・1823=**72歳**：

日本外史・・・1827=76歳：没した。墓所は、夫と並んで眠る。